

協立病院の理念

人権と人格を尊重した、
こころとからだの総合診
療とケアを実践する

協立病院だより

No.96 2024年11・12月号

発行：みさと協立病院

〒341-0016 埼玉県三郷市田中新田273-1
TEL 048(959) 1811/FAX 048(959) 1819
http://www.tokyo-kinikai.com/misato/

看護部長交代のご挨拶

協立病院での思い出



東京勤労者医療会 法人看護部長
稲垣 洋子

みさと協立病院の患者さん、利用者さん、友の会として職員の皆様お元気でしょうか？私は2002年から6年間は病棟看護師長として、2017年からの7年間は病院看護部長としてみさと協立病院にお世話になりました。この20年あまりで病院を取り巻く環境は激変しました。最近の特徴的な出来事としては「新型コロナウイルス感染症の流行による感染対策の変化」と「診療報酬、介護報酬の改定をおもなきっかけとした病院経営の大変

さ」があります。これらにより皆様にご迷惑とご心配をおかけした一方で、たくさんの叱咤激励をいただきました。本当に感謝しております。心に残る思い出を2つお伝えします。

〈義母の入院〉
15年以上前、ほかの病院で治療を終えた義母（夫の母）が、その状態では自宅退院は難しいことから内科病棟に転院してきました（当時、私はほかの病棟に勤務）。医師をはじめ多くの職員の丁寧なかかわりにより見違えるほど元

大事にしています。私は母の入院を経験して、みさと協立病院の医療がより一層好きになりました。誇りに思うようになりました。

〈精神科病棟の休止〉

「入院医療から地域医療へ」。議論を経て2018年3月に精神科病棟を休止しました。1990年に現在

地に移転し、「精神科医療の砦」となるよう奮闘してきた職員にとつてはつらい決定でした。病棟休止説明会での家族会「一歩の会」の皆様からの発言が忘れられません。「息子は『お母さん、この病棟は鍵をかけたくないんだよ！今までの病院と違うよ』と嬉しそうに

言いました」「通いやすいように三郷市に引っ越してきた」「病棟がなくなると、具合が悪くなったらどうしたらいいんですか？」。期待と信頼にこたえられない申し訳ない思いで胸がつまりました。現在は外来とデイケア、訪問診療、地域の医療機関への医師の派遣、

多くの事業所との連携で患者さんを支えています。精神科病棟には患者自治会があり、話し合いによる民主的な運営を大事にしてきました。それは「相手をまるごと受け入れ、人権を守る」という職員の教育の場にもなっていました。今に引き継がれる「みさと協立病院の

根幹」の部分であると、私は折に触れ感じてきました。皆様には大変お世話になりました。重要課題が山積するなか、江藤さんへバトンを手渡しました。引き続き温かいご支援をお願いいたします。皆様の健康とご多幸を心より祈り申し上げます。

看護部長就任の挨拶



みさと協立病院 看護部長
江藤 ちひろ

はじめまして。8月より看護部長の役を拝命いたしました江藤です。東京勤労者医療会には2002年に入職し、東葛病院産婦人科・東葛看護専門学校・みさとメンタルクリニックを経て2024年2月にみさと

協立病院に異動しました。初めての勤務地で緊張しましたが、みさとの職員はじめ関係する皆様に温かく迎えていただき感謝しています。自宅がある流山からは有料道路を渡れば20分程。仕事の都合がつく日は歩いて通勤しています。鳥の鳴き声が聞こえたり、季節の風を肌で感じたりと贅沢な時間であり幸せな時間です。

私はみさと協立病院に来てビックリしたことがあります。みさと協立病院の看護はすごいんです！急性期

病院のような医療機能はありませんが「食べる・寝る・排泄する・活動する・清潔を保つ」を柱に、人間が本来持っている生命力にとことん働きかけます。看護の基本がみさとにはあります。

前部長（稲垣）の存在があまりに大きくプレッシャーを感じていますが、職員と力を合わせて精一杯努めていきたいと思えます。

今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

